

## 《沖野忠雄と明治改修 年表》

年号		年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他
西暦	和暦			
1854	嘉永 7、安政 1	0	安政元年 1月21日 豊岡藩御役徒目付・沖野喜右衛門（別名・沖野春水）の三男として但馬豊岡藩城崎郡大磯村に生まる。幼名松之助。	
1855	安政 2	1	この頃、豊岡藩御役徒小役人・尾藤多次兵衛の養子となり、以降、尾藤忠雄と名乗る。	
1860	万延 1	6		
1861	文久 1	7	豊岡藩校・稽古堂に入学	
1868	慶応 4年、明治 1	14		明治に改元、治河使を置く
1869	明治 2	15		治河使を廃止、民部省土木司が水利行政を所掌
1870		3 16	01 次兄・肅一（神矢肅一）豊岡藩費遊学生として慶応義塾へと出立 11 豊岡藩費遊学生として大学南校（東京大学）に入学	民部省土木司が大河津分水起工式を挙行
1871		4 17		民部省を廃止、土木司を工部省に、その他を大蔵省に移管 土木司は土木寮に格上げ 土木寮は大蔵省に移管
1872		5 18	01.10 長兄・勝造自刃。この後、尾藤姓から沖野姓に戻る（年月日不明）。	ファン・ドールン、リンド、オランダより来日
1873		6 19		河港道路修築規則・淀川水源砂防法を定める（大蔵省達） デ・レイケ、エッセル、オランダより来日、土木寮大阪出張所、淀川測量を開始、内務省設立、地租改正
1874		7 20		土木寮は内務省に移管、淀川修築事業着工
1875		8 21		堤防法案を地方官会議で審議、利根川修築事業着工、信濃川大河津分水工事廃止
1876		9 22	06.19 在校中物理学修業のため、仏国留学（文部省） 07 エコール・セントラル入学	信濃川修築事業着工
1877		10 23		土木寮は土木局に改称、東京大学理学部に土木工学科を設置
1878		11 24		エッセル帰国、地方税規則布告、野蒜築港着工
1879		12 25	04 巴里中央諸芸学校卒業、アンジェニユール・デ・アーツ・エ・マニファクチュール・スペシアリート・コンストラクチュール（土木建築工師）の免状を得、その後巴里にて実地研究す。	ムルデル、オランダより来日

年号		年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他
西暦	和暦			
1880		13	26	河港道路修築規則消滅、ファン・ドールン帰国、北上川河身修築事業着工
1881		14	27 05 帰朝 07.10 職工学校雇 (月俸100円) (文部省)	東京職工学校を設立 (明治23年、東京工業学校と改称)
1883		16	29 08.27 御用掛準奏任 (月俸150円) (内務省) 土木局事務取扱 (内務省) 09.14 御用掛兼務、準奏任 (文部省) 東京職工学校勤務 (現今の東京工業大学) (文部省)	富士川・庄川河身修築事業着工
1884		17	30 04.28 職工学校を免じ東京師範学校勤務 (建築事務) (文部省) 06.04 静岡、山梨、長野 (富士川流域) 三県内土木局直轄諸工事監督 (内務省) 07 任内務四等技師 (内務省) 08.30 叙正七位 (太政官) 09.17 天竜川出張所監督 (出張所長と同義)	阿賀野川・阿武隈川河身修築事業着工
1885		18	31	工部省廃止、東京大学に工芸学部を設置 (理学部より土木等の工学関係学科を分離)、大阪大水害、野蒜築港工事中止、大井川・天竜川河身修築事業着工
1886		19	32 03 「富士川大井川天龍川改修工計画意見書」を作成 05.13 内務三等技師 05.18 新潟県、富山県、石川県、福島県下阿賀野川流域、長野県下信濃川流域、岐阜県下庄川流域の土木局直轄工事監督 (内務省) 07.29 第三区 (新潟) 土木監督署在勤 (信濃川修築、西鳥屋野新田にあり。27.09新潟に移る) 土木巡視長 (内務省) 10 「富士、大井、天龍三川改修全計画意見書摘要」を土木局長・三嶋通庸に提出 12.18 信濃川河身改修工事の起工式に出席し、祝辞を述べる。	内務省、土木監督署官制を公布 (全国に6土木監督署を置く)、帝国大学令 (東京大学を帝国大学に改組)、信濃川河身改修工事着工
1887		20	33 04 第二区 (仙台) 監督署兼務 (北上川修築、一ノ関にあり。22.07仙台に移る) (内務省)	利根川・木曾川・筑後川・富士川等で河身改修事業着工
1889		22	35 09.24 第四区 (大阪) 土木監督署勤務 (木曾川、淀川修築) (内務省)	東海道線新橋～神戸間全通

年号		年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他	
西暦	和暦				
1890		23	36	08.7 任土木監督署技師（これまでは内務技師、官制改正にて上の官名となり、巡視長は署長と改正）（内務省） 第四区（大阪）土木監督署署長、兼第五区（広島）、第六区（久留米・筑後川）署長（内務省）	第一回帝国議会、水利組合条例公布、水道条例公布、ムルデル帰国、琵琶湖疏水竣工、貞山堀改修竣工、利根運河竣工
1891		24	37	08.16 第四区（大阪）土木監督署長（内務省） 08.24 工学博士（文部省）	富山県常願寺川改修（合口）事業着工
1892		25	38	06.16 大阪市水道敷設工事長嘱託（報酬年1,000円）（大阪市参事会） 08.18 震災予防調査会委員（内閣） 10.05 内務技師兼務（内務省）	鉄道施設法公布
1893		26	39		日清戦争開戦、県常願寺川改修事業竣工
1894		27	40	06.28 「淀川高水防禦工事計画意見書」を内務大臣井上馨に提出 07 土木技術官会議は沖野案を一部修正して承認 10.01 第五区（大阪）土木監督署署長（淀川、官制改正第四区は第五区と改正）（内務省）	日清戦争終結
1895		28	41	08 「淀川高水防禦工事計画ニ関スル追伸」提出	
1896		29	42	03.24 第四区土木監督署署長兼務（名古屋・木曾川）（31.01.24 兼務を免ず）（内務省）。故郷の豊岡を訪れ、円山川を視察	河川法公布、淀川改良事業・筑後川改修事業着工、釜無川信玄堤破堤、信濃川横田切れ、石川県管手取川合口工事着工
1897		30	43	06.30 土木監督署技監（32.11.01 官制改正廃官となる）（内閣） 10.11 大阪市築港事務所工事長嘱託（報酬年3,000円、43.03.25まで。以後は顧問）（大阪市参事会）	砂防法公布、森林法公布、札幌農学校に土木工学科設立、京都帝国大学設立
1899		32	45		災害土木費国庫補助規程公布、耕地整理法公布
1900		33	46		利根川・庄川・九頭竜川改修事業着工、神戸市水道竣工（生田川に布引ダムを建設）、下水道法公布、木曾川三川分離竣工式開催
1901		34	46		富山県管神通川改修工事着工
1903		36	49	01.17 第五回内閣勸業博覧会審査官（内閣）	デ・レイケ帰国 筑後川改修事業竣工、県管神通川・手取川改修事業竣工
1904		37	50		日露戦争開戦

年号		年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他
西暦	和暦			
1905		38	51 04.01 任内務技師（官制改正、土木監督署廃止のため）（内閣） 補大阪土木出張所所長（淀川、遠賀川、高梁川、那覇、敦賀その他の河川港湾）（内務省） 土木局兼務（工務課長）44.03末まで（内務省）	土木監督署を廃止、出張所を設置、日露戦争終結
1906		39	52 04.01 明治37、38年事件の功により勲二等瑞宝章（賞勳局） 06.18 臨時横浜港設備委員	遠賀川改修事業着工
1907		40	53 正月休暇を利用し、突然、九頭竜川改修工事現場を視察 全国港湾改修の議容れられ、調査会主席となる（内閣） 11.14 清国に派遣（内閣）	信濃川・吉野川・高梁川改修事業着工
1908		41	54 03.05 欧米諸国に派遣（内閣） 04 仏国巴里万国道路、航海会議委員（内閣）	新潟県営加治川改修工事着工
1909		42	55 03.24～04.01 徳島県を訪問し、県知事など70余名に吉野川改修計画に関する演説を行うとともに、吉野川第十堰、津田港、小松島港などを視察し、善入寺島の遊水地化・全島買収計画を全島民の前で発表	
1910		43	56 10 臨時治水調査会委員（内閣）	関東・甲信越・東北地方を中心に大水害、臨時治水調査会設立、逓信省臨時発電水力調査局設置、九頭竜川第2期改修着工、石狩川改修工事着工
1911		44	57 04.08 高梁川改修工事起工式に出席し、鍬入れ 04.11 任内務技監（内閣）	第一次治水長期計画策定、淀川改良事業竣工 荒川・北上川改修事業着工、富士川直轄砂防事業着工
1912	大正元		58	木曾川・庄川改修事業竣工
1913		2	59	県営加治川改修事業竣工
1914		3	60	第一次世界大戦開戦、土木学会創立
1915		4	61 5月19日 明治神宮造営局評議員（内閣）	

年号		年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他
西暦	和暦			
1916	5	62	01.14 高梁川改修計画の変更に関し、岡山県会議事堂で開催された高梁川用水組合第2回会合に出席し、組合側の質問に対し1人で回答 01.22 土木学会定時総会にて役員改選 沖野忠雄は会長に当選 得票101、次点は野村龍太郎(48票)、次いで千石貢(11票) 04 勲一等瑞宝章(賞勳局) 06 土木学会会長 06.12~06.21 地方土木主任官会議	
1917	6	63	01.13 土木学会定時総会にて会長演説 06 吉野川を視察し、赤木正雄に現地指導。北海道に行き、石狩川などを視察 07 臨時神戸港設備委員(内閣) 10.06 支那へ出張(天津大水害善後策依嘱のため)(外務省) 10.12 下関発 釜山、奉天を經由して16日天津着 11.16 帰国	淀川大水害
1918	7	64	07.10 依願免本官(内閣) 08.09 叙正三位(宮内省)	第一次世界大戦終結 淀川改修増補事業着工
1919	8	65	次兄・神矢肅一薨去	遠賀川改修工事竣功
1920	9	66		富士川・円山川改修事業着工
1921	10	67	03.26 神戸の自宅にて薨去。68歳(数え) 子なし。京都黒谷墓地に葬る 10.26 沖野忠雄博士蔵書を京都大学に寄贈	第二次臨時治水調査会設立・第二次治水計画策定
1925	14			高梁川改修事業竣功
1927	昭和 2			渡良瀬川・信濃川改修事業竣功
1928	3			吉野川改修工事竣功
1929	4			荒川下流改修工事竣功
1930	5			淀川改修増補事業竣功、利根川改修事業竣功
1931	6			信濃川大河津分水竣功
1934	9			石狩川改修事業竣功

西暦	年号	年齢 (満)	沖野忠雄年譜	河川関係他
	和暦			
1935		10	部下により毛馬開門広場に氏の胸像を建立す	北上川改修事業竣工
1943		18	02.03 毛馬の沖野胸像が戦争のため海軍に献納される	
1949		24	夫人ふで氏は高師卒業生であったが、池田に退隠、同所にて没す 87歳、黒谷墓地に葬る	
1976		51	11.10 毛馬に沖野胸像が再建される	

[注] 沖野忠雄年譜は室田明：近代土木技術と沖野忠雄、『近代土木技術の黎明期』土木学会所収を基礎に加筆修正。他は主に「近代土木史年表」(『日本土木史－昭和十六年～昭和四十年』土木学会、1973年)、安藤良雄編『近代日本経済史要覧第二版』(東京大学出版会、1979年)、本文各章を基にして作成